

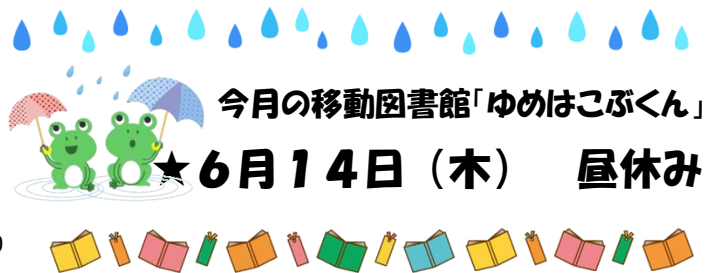
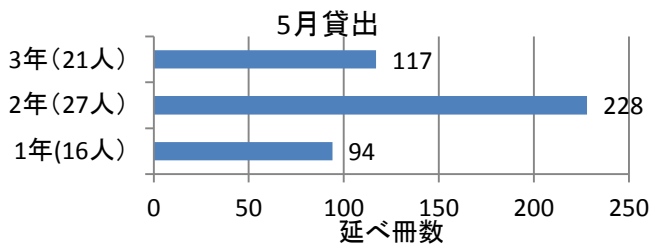


～雨の日はじっくり読書～



梅雨（つゆ）の季節に入ることを入梅（にゅうばい）といい、これ以後約1か月間は雨の多い日が続きます。「梅雨」という言葉は、ちょうど梅の実が熟すころ雨が降ることからつけられたものと言われています。雨が続く日は、部屋でじっくり読書が一番です。6月生まれの人は、川端康成や太宰治、ヘレン・ケラーやアンネ・フランクそして赤毛のアンの翻訳で有名な村岡花子など、たくさんいます。図書室にも置いてありますので、ぜひ読んでみてくださいね。

そして、6月19日は、朗読の日です。時には声を出して本を読んで見ませんか。作者の心が伝わってきたり、わからなかった言葉の意味がわかってきたりすることもあります。まずは家で家族の人に朗読してみませんか。



雨の日のおすすめ本

四重奏(カルテット)デイズ 横田明子 著

オレのピアノってなんだろう？オレたちは、自分の音を作るんだ！優柔不断のオレ、陸上一筋の光平、光平大好きな彩音、天才ピアノ少女マイが奏でる十二歳たちの奮闘曲！



マルヴァ姫、海へ！ ガルニシ国物語 上・下 アンヌ＝ロール・ポンドゥー 著

平和でゆたかな国、ガルニシ。十五歳のマルヴァ姫は、結婚式の前夜、こっそり城を抜け出した。結婚なんてまっぴら。海に出るのだ、冒険を求めて！けれど、「見知る世」でマルヴァを待っていたのは、思いもよらない運命だった…。



秘密のスイーツ はやしまりこ 著

神社の石の柱にあいた穴から、66年前の戦争中の日本に生きる雪子へお菓子を送る理沙。二人にはいつの間にか、深い絆が結ばれていた…。雪子とケイタイでつながった理沙。小さなタイムトンネルで結ばれた、出会うはずのない二人に芽生えた友情の物語。



まっしょうめん！ あさだりん 著

成美は、海外赴任中の父親の発言のせいで、なにか武道をしている写真を送らなければならなくなる。練習日の少なさで剣道を選び、写真だけ撮ったらやめようと思っていた成美だったが、道場に集う仲間たちそして剣道一筋な監督とともに、試合にのぞむことに！心と体に「まっしょうめん」から向かい合うさわやか剣道小説。



ミサゴのくる谷 ジル・ルイス 著

「ミサゴがここにいることは、だれにも言っちゃいけないの」…。農場に巣をつくった野生のミサゴ。少年たちは、その鳥をアイリスと名づけ、そっと見守ろうとする。きびしいわたりを生きぬいて、アイリスがふたたびスコットランドに帰る日まで。野生の鳥ミサゴと、少年たちの心あたたまる物語。

